

保健だより

2014年5月1日(木)発行

ゴールデンウィーク中に海外旅行から帰ってきて体調不良を訴える方は多く、中でも下痢などの胃腸症状、皮膚の異常、咳、そして発熱がよくみられる症状です。自然に回復することも多いのですが、特殊な感染症の場合、命にかかわる場合があります。早めの受診をおすすめします。

〒252-0326 相模原市
南区新戸5195-4
サンガこども園
電話046-255-0148



子どもを車内に放置することは犯罪です

～炎天下の車内はサウナと同じです～

炎天下に、車を30分放置すると、車内の温度は60度以上に達します。60度と言えば低温サウナとほぼ同じ温度です。気温のそれほど高くない日でも、直射日光が当たると2時間ほどで60度に達すると言われています。乳児や、成人でも体力が低下しているときなどは、車内が30度程度でも短時間で脱水症状を起こしたり、熱中症になることもあります。子どもを車内に放置することは、非常に危険なことです。

また、エアコンは停止する可能性があります。安易にエアコンをつけたまま子どもを車内に放置することはやめましょう。



家庭内の事故を防ぎましょう。

お子さんの不慮の事故は、家庭内で起きる割合が高く、親の注意で予防できるケースが大部分です。

新生児や乳児期には「窒息」に注意しましょう。タバコ、化粧品、医薬品、ピーナッツなどの「誤飲」が多いです。手の届く場所には絶対に置かないようにしましょう。ベビーベッドの柵の閉め忘れや階段、ベランダからの「転落」が多いです。柵などをつけましょう。浴槽での「溺死」のケース多いです。湯は残さず、浴室のドアは必ず閉めましょう。歩き始める頃のお子さんはポット、やかんの熱湯、汁物、調理の油などの「やけど」が多いです。キッチンや食卓では十分注意しましょう。



子どもの近視について

子どもの時に乱視や遠視などの視力障害があると、目や脳の能力がきちんと育たなくなってしまう危険性があります。又、心の問題で引き起こされる「心身症」の一症状として、視力障害が現れることもあります。心身のすこやかな発達のためにも、お子さんの目の状態について普段から十分に気を配っておきましょう。

近視には、遺伝的な原因もあるといわれますが、もちろんそれだけではありません。近くでものを見すぎない、ゲームなどで目を酷使しすぎないといった基本的なことをきちんと守ることが重要です。

もしお子さんの目に近視を疑うようでしたら、眼科で正確な目の検査をしたうえで、顔の大きさなど成長にあったメガネを選びましょう。

